

城下町成立
の頃①

第7回

天正8年(1580)5月、長水城が落城したあと、宍粟郡は神子田半左衛門正治が領することとなった。この神子田は尾張国生まれで、信長から秀吉の家臣となり、三木合戦の功で当地に領地を得た。

その後、天正12年(1584)7月に黒田官兵衛孝高が「播州宍粟郡一職」を与えるので、領知せよという一書を秀吉からもらって当郡を支配することになった。

元禄12年(1699)に著された『播州宍粟郡守令交代記』には、「役人、奉行当地に居住せりといへり」とあり、官兵衛自身が山崎の地に居住した跡を確認できるものはないが、篠ノ丸城の麓付近の居館跡に役人たちが居住したであろうと考えられる。官兵衛は宍粟の領主となったその3年後の天正15年(1587)7月には、九州豊前国中津に

十二万石の大名となってこの地を去ったが、宍粟はその飛躍への大きな足がかりとなった地といえる。

官兵衛の後は、龍野城主の木下勝俊の支配を受けることとなった。勝俊は、北政所の甥にあたる。宍粟郡を領すると、山崎村を新町とする判物(山崎八幡神社蔵)を出して、村を町に発展させた。年号の記述がないが、勝俊が宍粟を領して間もない頃とみられている。

それは、「山崎に新町をつくるから、移り住みたい者は住んでもよい。ただし、元の田畑を荒らしてはいけない。他所より移住する者には諸役を課さない」というもので、町場形成を促す根拠となる判物である。

当時の山崎は、篠ノ丸山の南麓に東に山田村、西に山崎村と



▲木下勝俊新町申し付けの判物



▲池田輝政の市日を定める判物

いう二つの村があり、ここを郡の中心地として町並みを作り、はじめて山崎町、山田町を一筋とする新町が形成されていくこととなった。

その後、慶長5年(1600)に関ヶ原の合戦の功で、姫路城主となった池田三左衛門輝政が播磨五十二万石を領した時、当郡もその領地となった。郡の代官として中村主殿助正勝が任命され、代官屋敷が山田町にでき、そこを「御茶屋」と呼んだ。

輝政は慶長5年に市日を定める判物(山崎八幡神社蔵)を出して市場の隆盛を促した。この二つの判物はかたや人家を集中させ、かたや経済活動を活性化させるという城下町の礎を作る基となった貴重な史料といえる。

山崎郷土研究会長 大谷 司郎

おいでよ 図書館へ

宍粟市立図書館 ☎62-4620
山崎町鹿沢 81

駐車場のごあんない

交通安全のため山崎小学校仮設校舎の南側駐車場をご利用ください。



今月の
オススメ



悩むこと生きること

今日の視覚レクシオン I
著者/姜 尚中

「悩みと不安の中で、それでも、淀んだ重々しい空気の中に沈み込んでしまわない日常の感性を伝えたい」という想いで綴られた信濃毎日新聞掲載のコラム集。



古代ローマ遺跡の片隅、ヴェネチアの船着場、地中海シチリア島など、イタリアの風土ならではと思わせる、個性豊かで自由気ままな猫たちの写真が満載です。

著者/岩合 光昭

イタリアの猫

図書館カレンダー

□ 休館日

【開館時間】午前10時～午後5時30分

日	月	火	水	木	金	土
10月	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			
11月	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

＜蔵書点検休館日＞

11月22日(金)～11月29日(金)

編集後記

紅葉シーズンとなりテレビや新聞などの取材が増える季節となりました。テレビといえば、9月29日に関西テレビで放映された番組「おらが町のお悩み陳情! 第1次さんま内閣」を皆さんはご覧になりましたか。番組は宍粟という字が読みにくく間違われやすいという悩みを福元市長らが明石家さんまさんに相談するというもので、宍粟市字書き歌の考案者である大部さん(五十波)もVTR出演し番組を盛り上げていただきました。楽しく構成された番組は全国に放映され、宍粟市の知名度アップに繋がったものと確信しています。これを機に、まだまだ魅力たっぷりの宍粟市をみんなに知ってもらい、元気なまちづくりに繋げていければいいですね。

石